

有害鳥獣対策はどうするのか

猟友会を通じ農家に情報を提供



中倉 毅 議員

過去3カ年(年次別)の農作物被害額はいくらか。

昨年は898万円である

町長

平成25年度64万7千円、平成26年度1,328万6千円、平成27年度898万円である。

町境の対応はどうか

中倉毅議員

横瀬の新天地、中尾地区では、焼酎用甘しよを約5ha、5人が栽培しているが、イノシシの被害をうけている。又、野方の立小野地区では、カボチャを2ha栽培しているがサル、イノシシの被害をうけている。両地区とも、

て対応している。

補助事業の活用は

中倉毅議員

電牧に係わる大崎町の補助金要綱は、経費の1/3でしかも、1基3万円が上限で農家の負担が大きい。国の鳥獣被害対策実践事業は、材料費の100%補助である。活用する考えはないか。

電牧の効果を検証する

農林振興課長

本町としては、電気柵の効果を見極めて次の手を打っていききたい。

国の事業を勉強したい

町長

財源の観点から優良なものや効果があるものについては、前向きに勉強したい。

エリア外の事故対応は

中倉毅議員

野方猟友会と大崎猟友会の会員がエリア外で事故になった場合はどうなのか。

捕獲指示により処理

農林振興課長

何らかの事故があった場合は、捕獲指示の通知どおり、警察は事故処理する。

捕獲指示の一本化は

中倉毅議員

エリア外の会員が獲物を追って駆除する場合の事故処理がうまくいくためには、捕獲指示を一本化すべきと思うがどうか。

両猟友会の協議が前提

町長

両猟友会には、これまでの歴史があり、以前にも一本化の相談もしたが十分な話し合いが出来なかった。

巡回パトロールの配置は

中倉毅議員

現在、野方猟友会にサルの巡回パトロール員が配置されている。昨年の捕獲実績を見ても大きな差はない。大崎猟友会にも巡回パトロール員の配置をするべきと思うがど

サルが出没したら考えたい

町長

野方猟友会には、サル被害の予防活動として、巡回パトロール員を1名配置している。大崎猟友会のエリアにサルが出没したら考えたい。

女性管理職の登用は

中倉毅議員

大崎町も高齢化率35%になり、医療費の負担も年々大きくなってきている。高齢化対策と少子化対策の両面から取り組みが必要がある。そこで、女性管理職として、保健師の資格を持っている県職員と大崎町の保健師の人事交流をすべきと思うがどうか。

人材の確保を図りたい

町長

本町の新たな行政課題や必要とする業務支援のため県との連絡を密にして、すばらしい人材の確保を図っていききたい。